

見直しポイント③

## 教育カリキュラム

### 高校が伸ばしてきた力を それ以上に伸ばすための教学改革を

(株)ベネッセキャリア  
教育事業本部本部長

**松本 隆**

まつもとたかし●(株)ベ  
ネッセコーポレーションにて大  
学向けアセスメントの開発など  
の担当を経て、2017年10月  
より現職。



#### ① 高校教育の変化を把握する

高大接続改革が抱える課題の一つが、高校の学びと大学の学びの連携です。高校で英語4技能を鍛えてきたのに大学の授業で2技能しか使わなかったり、同じPBL形式の授業でも高校で受けた授業の方がレベルが高かったり…。大学の授業に期待を裏切られ、退学に至ったり、母校に自分の大学を勧めない学生が少なからずいるという実態があります。

こうした現状を打破すべく、一部の大学では、教員が高校の授業見学をする動きも出始めました。学生募集のための高校訪問ではなく、学びの実態を知るためにです。SGH\*、SSH\*、附属校などで行われている意欲的な探究学習などを目にすれば、自学の入試や授業をどう変えるとよいか、そのヒントがつかめるはずです。

#### ② 入学者の変化を見越して教育を変える

このように「高大接続」の観点から考えると、大学は入試と教育の見直しを一体に考えざるを得ません。教育カリキュラムについて考える場合、欠席過多や退学防止などの「底上げ」策に目が向きがちです。もちろん大切なことですが、一方で意欲や学力の高い学生に対し、その期待に応えるプログラムを用意することも大切です。越えがいのあるハードルがない状態では、せっかく意欲を評価する入試で合格しても、学びに向かわなくなることが考えられます。オナーズ・プログラムのような成長の機会を提供することも考えるとよいでしょう。

高意欲・高学力層が前のめりに学ぶ姿は、周りの学生のよい刺激になり、結果的に全体の底上げにつながります。また、卒業後に社会で活躍してくれれば、自学のブランド力が上がり、受験生の質向上も期待できます。

#### ③ 大学でこそ育まれる力を客観的指標で測る

自学の教育の質を社会にアピールする際、プログラムの特徴を説明するのではなく、エビデンスとなるデータを付して学生の成長を示すほうが効果的です。いかに学生を鍛える素晴らしいプログラムであったとしても、特に企業からすれば、その説明だけでは学生個人の質保証にはなりにくいものです。

データに説得力を持たせるには、学生の自己評価などの「主観的評価」だけでなく、スキルを測定した「客観的評価」が不可欠です。各種スキルの中で、特に思考力は大学の授業を通して育まれる汎用的能力であるため、全学の教育の質を検証する指標に向いています。学修成果の可視化で何を測定するのかもこの機会に見直しを図るとよいでしょう。

#### ④ 多様性を重視するなら授業も多様に

入試改革を通して、出身地域や能力などの多様性を重視した入学者集団をつくらうと考えている大学は多いと思います。その時に考えたいことが、入試を変えるだけでなく、授業の形態をより多様にする事です。

今の学生の志向に合った映像授業、長期休暇中に合宿形式で行う集中授業、といったさまざまな形態の学びを提供することにより、多方面のニーズに応えられるため、それまでと異なる受験者層の開拓も期待できます。学生にとっても、多様な経験を通じた新たな成長体験がもたらされるでしょう。

「教室で週1回×15コマ」というこれまでの常識にとらわれたままだと、新しい授業形態は生まれません。大学が守るべき授業実施のルールに則しながらも、固定観念を捨て、自由度を高く考えれば、もっと多様で特色のある教育を提供できるのではないのでしょうか。

### 入試改革と並行して行いたい教学施策

高校教育の変化を把握	実践例	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語教育、AL、探究活動などが盛んな高校の授業を見学する</li> <li>自学で活躍する学生が、高校時代に何に取り組んできたかを知る</li> <li>目的意識が高い入学者の意欲を初年次教育でさらに高められているか確認する</li> </ul>
入学者の変化を見越した教育	実践例	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試改革による入学者の変化をシミュレーションする</li> <li>能力や意欲が高い層が満足できる教育を提供できているか確認する (英語以外でも能力別クラス編成、チャレンジングな教育プログラムの提供など)</li> </ul>
客観的調査による学修成果の可視化	実践例	<ul style="list-style-type: none"> <li>主観的評価だけでなく、客観的評価でも測定する</li> <li>大学教育でこそ伸ばせる力(思考力など)を指標化する</li> </ul>
多様な形態の授業を行う	実践例	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定観念を捨て、授業の形そのものも多様化を図る</li> </ul>

\*SGHはスーパーグローバルハイスクール、SSHはスーパーサイエンスハイスクールの略。いずれも文部科学省の高校対象の事業